

音楽教育を通して 『繋がること』



名古屋芸術大学教授
竹内 雅一 氏

教育随想



平成 29 年 11 月 1 日

11 月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

| | |
|------------------------|---|
| 教育随想…………… | 1 |
| 名古屋芸術大学教授 竹内 雅一 氏 | |
| この人に聞く…………… | 2 |
| 藤川まちづくり協議会会長 鈴木 忠氏 | |
| 羅 針 盤 …………… | 2 |
| 生活科・総合的な学習指導員 高沢 秀昭 | |
| ふれあい…………… | 3 |
| 六ツ美中部小 近藤 佳奈 | |
| 特 集…………… | 4 |
| 大学の地域連携 | |
| お知らせ…………… | 6 |
| フォト・ヒストリー… | 8 |
| LL教室 | |
| (昭和 48 年) | |
| この本を…………… | 8 |

昨年十二月十七日に岡崎市制一〇〇周年記念事業の一環で、『岡崎市制一〇〇周年記念祝祭演奏会』が開催され、多くの出演者が岡崎市民会館ホールにて輝かしいサウンドを響かせました。私自身も岡崎出身の音楽家として吹奏楽及び管弦楽の指揮を務めさせていただき、たいへん貴重な機会をいただいたこと、感謝の念に堪えません。

平成二十七年九月二十七日の一〇〇周年記念祝祭演奏団の結成式から一年と三か月。長いようで短い期間の中、子供たちと共に音楽を創り上げ、演奏会という一つの目標に向かって邁進してきました。私自身、芸術とは個々の点を線で結び、その点が「繋がること」で発展していくと考えます。音楽においては、一つ一つの音符を如何に美しい旋律として繋げていくか、個々人の練習による演奏技術を如何に楽団全体で美しく響かせるか、など様々な点を繋いで一つの芸術として音楽を創り上げていきます。日々の練習においても同じです。一つ一つのトレーニングを積み

重ね、そして日常の様々な経験や想いと相互的に繋がり、より表情豊かな演奏が可能となります。今回の演奏会では、まさに子供たち一人一人という点が楽団全体となって繋がりが、日々の練習の積み重ねとこの演奏会に対する想いが繋がり、表情豊かに色彩溢れる音楽を奏でることができたと思います。この短期間で、全員で一丸となつて音楽を創り上げ感動を生み出すことが出来たことに、子どもたちの大いなる可能性を感じました。

『繋がること』は芸術の世界のみならず、社会を生きていくうえで欠かせないものです。私たちの中学時代よりグローバル化は進み、日本社会の中で繋がることだけではなく、世界とも積極的に繋がっていかなくてはいけない時代となりました。今回の演奏会のように芸術を通して『繋がること』への感動が、子供たちにとって多様な社会と繋がることの後押しになればと切に願います。

最後になりますが、「響(ひびき)」という字は郷の音(さとのおと)と



書きます。子供たちにとって、この岡崎市民会館ホールでの演奏が中学生時代の「ふるさとの音」として、記憶の中に生き続け、輝かしい未来への糧になることを願っています。また、私自身もこの演奏会を通して、子供たちの可能性を信じ、子供たちと繋がりたい、共にふるさとの音を紡いでいきたいな、と思ふ新たにしたい次第です。(たけうち まさいち)



むらさき麦に魅了されて

藤川まちづくり協議会会長

鈴木 忠 氏

爰も三河むらさき麦のかきつはた

松尾芭蕉

藤川宿の西端、十王堂境内に芭蕉の句碑が建つ。しかし、芭蕉の目に映り、詠まれた麦は、戦後途絶え、幻の麦となっていた。

その後、平成六年、芭蕉三百回忌の年に、むらさき麦の復活に立ち上がった人たちがいた。その四年後、鈴木さんはこの活動に参加することになった。

「それまでは会社勤めで、地域のこととはほとんど知りませんでした。しかし、定年を機に参加した勉強会で、むらさき麦の持つ色合いの美しさに魅了されました。当時は私を含め、

十名程度の活動でしたので、まず、学区の皆さんにむらさき麦を見て知ってもらいたいと思いました。」

学区を通る街道沿いに借りた畑で栽培を始め、観賞用として鉢植えやプランターを町内に配った。さらに三年後、自身の休耕田を畑に変える。

「東海道四百年祭に向け、観賞用だけでなく、食べ物としても親しんでもらいたいと思いました。食用には生産量の確保が必要となりますが、麦は繊細で、育てるのも一苦労です。精麦の技術を習得するために、水車の使い方を習いにも行きました。」

麦ご飯や麦茶を藤川の祭りや店舗に麦やひいた粉を持ち込み、商品化の協力を求めた。

「ポリフェノールなどの栄養価も高い麦ですが、普通の小麦粉とは食感や香りも変わり、手間もかかる。快諾されることばかりではありませんでした。しかし、諦めずに続けることで、声をかけてくれるところも出てきました。商品開発は難しく、百やっつてもうまくいくのは一あるかないかです。正直、まだ売れ筋と言える物もなく、生産中止になった物もあります。が、楽しみがあるから続けられます。」

平成二十七年には、学校給食でむらさき麦の麦ご飯が提供された。

「給食は、市内全ての子供が食べ、

栄養となり、家庭でも話題に上る。だから、行政のあらゆる機関に何度もお願いに伺いました。採用の連絡を学校給食協会からいただいたときは、涙が出るほど嬉しかった。むらさき麦が認知されたと思いました。」

今では協力者も百人を超え、近隣の幼稚園なども麦作りに参加する。商品開発では、市内の高校や地元

の大学との連携も進み、むらさき麦にかかわる人の輪も広がっている。

「むらさき麦は、穂だけでなく茎も葉も銀がかかった美しい紫になります。藤川の街道を走ると鮮やかな紫が広がる。藤川全体を、そんなむらさき

麦の郷にし、岡崎のシンボルにするのが私の夢です。ロマンを感じます。」

今年度二度目のむらさき麦の給食が、今月市内各校で提供される。むらさき麦、地元藤川への深い想いを味わうことができる。



氏名 鈴木 忠 氏
生年月日 昭和十三年十一月二十三日
住 所 岡崎市藤川町



対話で学びを深める

生活科・総合的な学習指導員

高沢 秀昭

学習指導要領が改訂され、小学校は三十二年度、中学校は三十三年度より全面实施となる。しかし、総合的な学習の時間は、来年度より本格的な実施となる。今回の改訂の柱の一つが「主体的・対話的で深い学び」の実現である。市内の小中学校では、対話に力を入れた具体的で魅力ある実践に取り組んでいる。

A 中学校の二年生は、授業の初めに職場体験で味わった楽しさや嬉しさを語り合った。しかし、もう一度同じ職場で働いてみたいという生徒は数名であった。多くの生徒は、大変な仕事はしたくないと考えていた。そこでB 教諭は、大変な仕事を続けるのは



一緒に歩こう

六ツ美中部小

近藤 佳奈

入学して間もないある朝、教室にAがいなことに気付いた。通学班の子に聞くと、登校途中に転んで、学校へ行くのが嫌になり、家に引き返してしまったそうだ。Aは校区の中でも最も遠くから登校しており、これまでも慣れないランドセルの重さ、と長い道のりに思わず泣けてしまうことが度々あった。

私は保護者に連絡して急いで家へ向かった。家の裏手にうずくまっていた小さな背中を見つけ、

「途中まで学校に来られたのは、えらかったね。あともう少しだったね。」と声を掛ける。しかし、優しく声を掛けてもAは、じっと下を向いているばかりだ。私は待ちきれず、

「さあ、一緒に学校行こうかねえ。」と言い、Aを抱きかかえながら歩き

出そうとした。するとAは、嫌だ嫌だと泣き叫んでもがく。それでも私は声を掛け続けた。

「どうする、Aさん。おうちの車で学校までワープする、それとも、歩いて行く。」

と問いかけると、Aは、

「いい、歩く。歩いて行く。」

と車で行くことを拒んだ。本当は自分でやり遂げたいと、小さな背中が訴えているように見えた。Aを降ろし、学校まで一緒に歩くことにした。

「えらいね、Aさんは自分で歩きたいんだね。」

そう声を掛けると、Aは下を向いたままゆつくりと歩き始めた。立ち止まりながらも、少しずつ歩を進めるAの横を歩きながら、田んぼにたくさんのカエルがいたことや家族と釣りに行ったことなどをたくさん話した。Aとの初めての特別な時間となった。校門が見える頃には、Aは普段の表情に戻っていた。

また、Aは下校後、児童育成センターで過ごすことになっていた。しかし、下校時にその列には並ばず、家に帰る班に隠れるように並んでいた。自分の気持ちを表現することが苦手で、育成センターの友達とうまく関われないでいたのである。育成センターに行く列に並ぶように伝えるがAは嫌がった。そこで、

「一緒に歩こうかね。」

と声を掛け、一緒に歩く日々が続いた。同じ育成センターに行く子からも誘ってくれるように働きかけた。すると、一か月後には自分から進んで列に並び、育成センターに行くことができるようになった。

その後も、登校時、途中で引き返してしまったり、座り込んで動けなくなったりすることが続いた。その度、Aにどうしたいのかを聞き出し、雨の中を抱きかかえて学校を目指したり、けんけんしながら一緒に登校したりした。そして、少しずつ少しずつ、自分から登校できる日が増えていった。

一学期の終わり、ついにAは、通学班で登校できるようになった。歩けるようになったことを褒めると、

「長くて、暑かった。」

と、嬉しそうに答えるA。声を掛けるだけではなく、一緒に歩くことが子供に寄り添う第一歩だと、Aから教えられた。



なぜかを生徒に考えさせようと、保育園を取材した映像を見せた。視聴後、

保育園実習をした生徒Cに、生徒Dは、「保育園の先生は何が大変だと言っていたか」など、次々に質問を投げかけた。生徒Cが、「一人一人の子への対応が大変だし、育児との両立も大変だそうだよ」と答えると、

生徒Dは、「どうして大変な仕事なのに続けられるのだろう」という、新たな疑問を抱いた。生徒Dはこれまで仕事は楽しいもの、趣味や特技を生かせるものだと考えていた。生徒Cとの対話を通して、生徒Dは仕事をする目的について探究を始めた。家族や身近な人に取材をし、仕事にはやりがいがあるということ、自分にとってのやりがいとは何かを考える機会となった。その背景には、意見を出し合える学級の温かい雰囲気と、訪問先が異職種の子供で組まれたグループ構成の工夫があった。

学びをより深めるには、対話をどこに位置づけるのかという視点で授業を構築する必要がある。多様な他者と協働的に探究活動に取り組むことを通して、子供一人一人が輝き、思考を深めていく学びを実現したい。



▲ 学生による英語の本の読み聞かせ（岡崎女子大学/根石小）

中核都市である岡崎市には、愛知学泉大学・短期大学、愛知産業大学・短期大学、岡崎女子大学・短期大学、人間環境大学の四つの大学がある。どの大学も、地域との交流、地域との連携を積極的に推進している。

地域連携の推進を図る学部を開設している大学もある。大学が、岡崎市や地域からのボランティアの依頼を受け、その中から学生が希望するものを選び、授業の一環として活動することが位置づけられている。また、体育の授業の補助等、学生が主体となる教育ボランティアやサークル活動など、世代を越えて子供や高齢者と交流する取り組みが行われている。

また、学生だけでなく、大学の教授が、市民の学びの幅を広げ、深めるために、地域のイベントや市民大学等の講座の講師として参加している。

市内のいくつかの小中学校では、子供の学校生活への支援や、専門的な見地からの学習への協力など、教育活動の充実のために、大学との連携を図っている。学生ボランティアとして、子供の学びのサポートや子供と休み時間と一緒に過ごす取り組みは多くの学校で行われている。また、児童・生徒が大学に訪問して講義を受ける取り組みも見られる。

大学と小中学校や地域との連携は、さらなる小中学校の教育活動の充実や地域社会の活性化、市民の生涯学習の推進の一翼を担っている。

OKAZAKI SHIMIN DAIGAKU 主 座 ● 岡崎市
平成29年度 第44回 **岡崎市民大学**
岡崎市岡崎駅前交差点プラザ 会議室103 定 時 10:00 - 11:50 (開講)

- 8月26日 「江戸の夢 一浮世絵、歌舞伎、妖怪、双六を通して」
愛知学泉短期大学 千賀 敬之 氏
- 9月16日 「イギリス英語と北米・アメリカ英語、違いはどこから来たの？」
岡崎女子短期大学 日野水 恵 氏
- 9月23日 「広告で社会を明るく 一公共広告の役割と期待」
愛知産業大学 山崎 方雅 氏
- 9月30日 「人間と環境について考えた経済学者たち」
人間環境大学 山根 雄二 氏

TEL 0564-23-3175 (内線40)

市民が自主的に学ぶ生涯学習の場として、「岡崎市民大学」が毎年開催されている。市が地域の大学にも協力を依頼し、教授、准教授、特任教授が講師として参加している。



一 小中学校と関わる



▲ いきものはっけん (愛知学泉大学 / 矢北小)
学区の用水路で大学教授や学生と一緒に生き物を探し、自然とのふれあいの充実を図る。

大学生と生き物を探しに行き、ようやくヤゴを見つけました。また一緒に生き物を捕りに行きたいです。
【2年児童感想】



▲ 学生ボランティア (愛知学泉大学 / 北野小)
授業の補助として参加し、個々の子供たちへの支援を行う。



▲ 大学で講義を受ける中学生 (人間環境大学 / 東海中)
学区にある大学を見学し、心理学の講義を受けることで、大学について知る。



▲ 学生ボランティア (愛知産業大学 / 世界おがざき子ども美術館)
造形おがざき子展の造形コーナーで制作の補助をする。



▲ 下校指導ボランティア (岡崎女子大学 / 根石小)
子供たちが安全に下校できるように見守る。

一 地域と関わる

世代によって経験や考え方の違いはありますが、この違いがあるからこそ異世代交流で様々なことを感じ、人間性を豊かにしてくれていると感じています。
【学生の感想】



▲ 大学教授が講師として参加する公開講座 (愛知学泉大学 / げんき館)
学生が助手として、親子でつくる和風プリン講座の準備やアシスタントを行う。



▲ イベントに参加する大学公認キャラクター (愛知産業大学 / 藤川宿)
地域からの要請を受け、写真撮影やちらし配りなどを行う。



▲ 高齢者との交流 (岡崎女子大学 / 地域施設)
サークル活動としてすごろくやダンスなどを通して、世代間での交流や学び合いを目的としている。



●教育最新情報

◆平成29年度全国学力・学習状況調査における岡崎市児童生徒の結果について

1 調査分析概要

(全国の平均正答率と比較して)

(1) 全体の様子

岡崎市内の小中学校はともに、国語、算数・数学の「知識」「活用」に関する問題において、全国及び県の平均正答率を上回っている。

小学校においては、算数の「活用」に関する問題が「たいへんよくできています」状況である。中学校においては、国語の「活用」に関する問題で、数学の「知識」「活用」に関する問題で、「たいへんよくできています」状況である。

(2) 小中学校別各教科「知識」「活用」に関する問題の様子(左表)

2 岡崎市教育委員会の授業改善等の取組

(1) 国語、算数・数学の岡崎市

3 留意点

(1) この調査は、子供たちの学習状況の改善を図るために参考とするものである。

(2) この調査で測定した学力や学習状況は、特定の一部分である。

(3) 学校では、成果と課題を把握し、授業改善に努める。

(4) 家庭では、得意なこと・不得意なことを知り、また生活習慣の充実を図るなど、児童生徒が学習に意欲をもつて取り組める励ましや環境づくりをお願いします。

◆岡崎市教育研究論文募集

平成29年度岡崎市教育研究論文を次のとおり募集をする。

【趣旨】

岡崎市立小・中学校教職員の日頃の教育実践及び教育研究の成果を広く募り、教職員の研修と資質向上及び学校教育の健全な発展を図るとともに、その努力を顕彰する。

【部門】

- ・ 第一部門…個人研究
・ 第二部門…共同研究

【論文の体裁】

① 字数 一八二〇〇字以内(図表、写真等の資料は、本文の範囲内に入れる。)

② 用紙・様式 A4用紙、40字×35行

13枚以内

(余白天地左右20ミリ以上)文字は12ポイント以上(余白への資料添付は禁止)

【留意事項】

① 表紙はテキスト(主題・副題・所属・氏名)のみとし、写真やイラストは掲載しない。

② 体裁の違うものは審査の対象外となるので、印刷状態で確認する。論述部分については、テキストボックスなどの方法で文字数を増やさない。

③ 写真やノートのコピーなどを、本文の枠内以外(目次等)に載せない。添付資料は、判読しにくくなるほど縮小しない。

④ 未発表のものとする。(継続研究は可)

⑤ 先行文献を引用方法する場合は、引用が明確になるようにする。

⑥ 個人に関する情報を論文中に記載する場合には、「児童A」等と表記し、特定の個人が識別されないようにする。写真や資料として使用する場合には、保護者の同意を得る。

【提出期限】 平成二十九年十一月二十一日(火)午後五時

●表彰

◆日本管楽合奏コンテスト予選審査会
最優秀賞(全国大会に出場) 六ツ美中学校

○中学校B部門
最優秀賞(全国大会に出場) 北中学校

◆中部日本吹奏楽コンクール本大会
大編成の部
金賞(一位) 文部科学大臣奨励賞 美川中学校

○小編成の部
六ツ美中学校 翔南中学校

◆東海小学校バンドフェスティバル
銀賞 竜美丘小学校

◆愛知県統計クラブコンクール
第一部(小学校一・二年)
金賞 三島小 判治 直哉

銀賞 連尺小 鈴木 伽耶
銅賞 連尺小 田湯虎太郎

○第二部(小学校三・四年)
金賞 竜美丘小 林 美晃

銀賞 三島小 判治 結月
梅園小 石原 徹哉

銅賞 三島小 織田 華子
連尺小 山田 華暖

○第三部(小学校五・六年)
金賞 三島小 山本 孝哉

銅賞 井田小 水野 有彩

銀賞 井田小 安田 優花

大門口小 加藤 一翔
伊藤 慧悟

・カ
ツ
ト
電
南
中
鈴
木
太
加
志

LL 教室

Language Laboratory
(昭和48年)

写真提供：額田中学校



額田中は、形整中、下山中、豊富中、宮崎中の四校を統合し、昭和四十七年に誕生した。新校舎には最新設備が整えられた。LL教室もその一つである。LL教室は、外国語学習の「聞く・話す」能力を高める設備として、岡崎市内の多くの中学校に設置された。メディアの主流は当時カセットテープであった。生徒はヘッドフォンで音声の問題を聞き取り、それに対し、ボタンで回答する。教師は、アナライザー装置を利用して、生徒一人一人の学習反応を正確に把握することができた。その後、教育機器は目覚ましい進歩を遂げた。LL教室は視聴覚室、パソコン室と姿を変え、様々な学習場面において、子供たちの確かな学力の向上に役立っている。

本物の学校現場、本当の先生の仕事を学生たちには見てもらいたい。大学が地域と連携して行う学生支援員の意義について熱く語る教授の言葉が印象深い。教職を志す若者に、夢と希望を与えられる姿かと自省した時、胸を張っていただける自分でありたいと強く思う。

東京オリンピックの開催まで千日を切った。新世代の台頭には興味がない。かつての教え子や目の前の子供たちがその中に入るかもしれないと思うとオリンピックへの期待も膨らむ。スポーツの秋。夢に向かって汗を流す子供たちを支援していきたい。

と **ホ**
霜 **月**
ツ

連なる畑一面に、淡く輝く紫色が広がる。芭蕉も、そのむらさき麦の美しさに魅せられ、句を詠んだのであろう。一度は失われたものの、その美しさに魅せられ、復活を願った人々がいる。情熱は人をつなぎ、岡崎の古くて新しい姿をこの地に根付かせる。



いもほり (羽根小)



*** 親から子へ**
かかわりの糸を結ぶ21の言葉 曾山 和彦
文溪堂 ￥1,500

心に残った一文
子育てには、時に涙を流しながらでも叱る厳しさをもった親の存在が欠かせないのです。

廊下を歩くと、たくさんの子供たちが声を掛け、膝をつくともうさってくる。笑顔と一緒に、友達や家族のことの会話が飛び交う。人との関わりが子供の成長にとって欠かせないことがわかる。本書は著者が、親が子育てで名人になるために書いたものである。話の聞き方や答え方、褒め方や叱り方など、教師としても参考になる。子供のモチベーションアップなどの事例も具体的だ。厳しさは、「プラスのストローク」への期待であり、親や教師だからこそ必要なもの。だから教育には、感動がある。

*** ことばの伝達力** 加藤 昌男
NHK出版 ￥1,000

*** 日本人の道徳心** 渡部 昇一
ベスト新書 ￥815

*** メディアにむしばまれる子どもたち** 田澤 雄作
教文館 ￥1,300

愛宕小 小田 哲也